

令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 晃陽 中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

- | | |
|------|-----|
| ① 国語 | 51人 |
| ② 数学 | 51人 |

5 留意事項

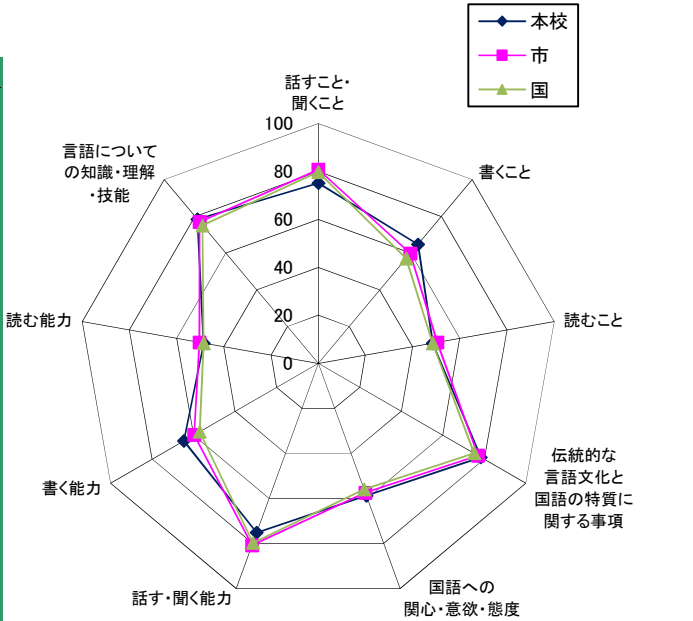
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立晃陽中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国, 市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	75.2	80.8	79.8
	書くこと	64.7	59.8	57.1
	読むこと	48.5	50.4	48.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	78.4	77.0	75.1
観点	国語への関心・意欲・態度	58.8	57.5	56.0
	話す・聞く能力	75.2	80.8	79.8
	書く能力	64.7	59.8	57.1
	読む能力	48.5	50.4	48.5
	言語についての知識・理解・技能	78.4	77.0	75.1



★指導の工夫と改善

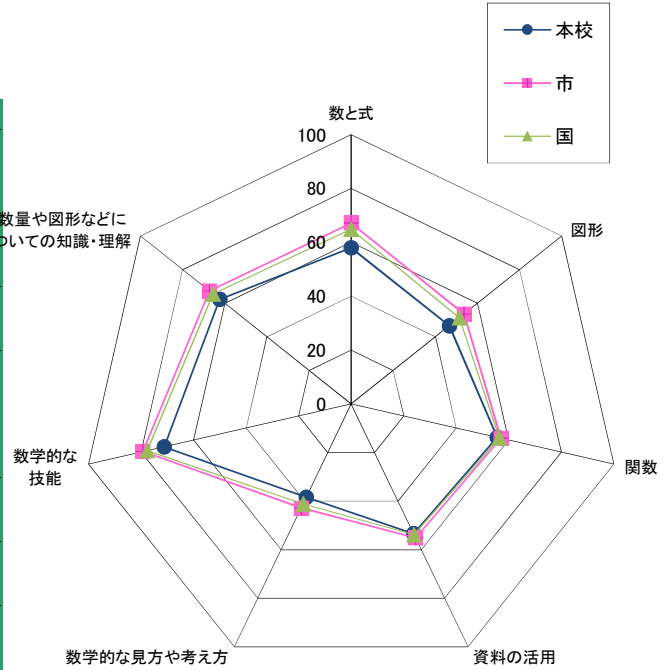
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	●市を5.6ポイント、県を4.3ポイント、国を4.6ポイント下回った。 ○「話し合いでの司会の発言の役割について説明したものとして適切なものを選択する」では、市を1ポイント、県と国を2ポイント余り上回った。 ●「話し合いでの発言について説明したものとして適切なものを選択する」では、市、県、国から8ポイント弱下回った。 ●「参加者がどのようなことについて発言すると良いかと、その理由を書く」では、市、県、国を7ポイントから8ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・新型コロナウイルス感染防止の観点から、授業での話し合い活動が十分に行えなかったことが正答率の伸び悩みの要因の一つと考えられる。 →話し合い活動における役割分担の把握と、発言の意義と効果等について「聞く問題」を活用しながら練習を重ねる。
書くこと	○市を4.9ポイント、県を6.7ポイント、国を7.6ポイント上回った。 ●○「意見文の下書きを直した意図として適切なものを選択する」では、市を1.4ポイント下回ったものの、県を0.5ポイント、国を1.7ポイント上回った。 ○「意見文の下書きの構成の工夫について、自分の考えを書く」では、市を7.4ポイント、県と国を9～12ポイント余り上回った。 ○「事前に確かめておきたいことについて相手に失礼のないように書く」では、市を9ポイント余り、県と国を11ポイント余り上回った。	・「ことばの決まり」の学習を随時繰り返し行い、主語―述語の係り受け、修飾―被修飾のつながり等についての語感を養わせる。 ・作文指導の中で、悪文の推敲を行い、正しい言葉の使い方について学習させる。 ・読書指導を充実させ、より良い文章に数多く触れる機会を作る。
読むこと	●○市を2ポイント余り下回ったが、県はわずかに上回った。 ●「喝采してやる」と「とった」のそれぞれについて誰の動作か選択する設問では、市、県、国を4～6ポイント下回った。 ○「反対の結果を呈出した」について、このことがわかる「黒」の様子を文章の中から抜き出す設問では、市、県、国を5～8ポイント上回った。	・その文章や話の意図は何かをつかませるために、「要約」するためのポイントについて指導する。 ・「何が(主語)―どうした(述語)」が文章の基本なので、常にそれを意識した読み方ができるように授業において繰り返し練習していく。また、言葉や表現に拘った読み方をさせることで、場面や背景、人物の心情等についてそれらをヒントにつかめるように授業の中で意図的な発問を使って練習したい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○市を1.4ポイント、県と国を2～3.7ポイント上回った。 ○「漢字を読む」では、「伸ばす」は100%、「詳細」は94.1%と高い理解だった。 ●○「随時」の意味の選択問題は、県はわずかに上回ったものの、市と国を2ポイント余り下回った。 ○「行く」の敬語表現については、県と国を上回り、市はほぼ同等の正答率であった。	・漢字や語句の小テストを毎時間の初めに行い、繰り返し練習をする。 ・言葉の意識を高め、漢字の由来、なぜその文字が使われて漢字ができていないか等、授業の中で触れ、関心を高めたい。 ・敬語表現については、尊敬語(相手の動作)、謙譲語(自分または自分の側の動作)を徹底して練習し、敬語感覚を高めたい。

宇都宮市立晃陽中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	58.0	67.2	64.9
	図形	46.6	53.6	51.4
	関数	55.6	57.0	56.4
	資料の活用	53.4	55.1	53.8
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	38.4	42.8	41.1
	数学的な技能	71.2	79.3	77.7
	数量や図形などについての知識・理解	62.4	67.4	65.6



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○無回答率が低く、問題に挑戦しようとする姿勢が見られる。 ●国，市の平均をともに下回っている。	・具体的な場面で、方程式を立式する項目が，県，国の平均より20ポイント近く低いので，文章から式を作る，という課題に重点的に取り組んでいきたい。
図形	○中心角についての設問に対して，県，国の平均をどちらも2ポイント以上上回っている。 ●国，市の平均をともに下回っている。	・1年時の内容については県，国の平均とほぼ同ポイントである。2年時の内容にやや開きが見られたので，その部分を重点的に復習していく。図形の性質を改めて考え，証明していく分野であることから，語句の意味，図形の成り立ちなど普段当たり前に見ている図形の定義，定理について理解を深めていきたい。
関数	○与えられた表やグラフから必要な情報を適切に読み取ることができる。（県，国の平均を4ポイント以上上回っている） ●国，市の平均をともに下回っている。	・与えられた情報を読み取ることにここ数年取り組んできており，その成果が表れてきている様に思うので，引き続きその点に取り組んでいきたい。
資料の活用	○中央値やヒストグラムなど，データを読み取り傾向をつかむことができる。 ●国，市の平均をともに下回っている。	・基本的なデータの傾向をつかむことができる様に思うが，それを活用する力をつける必要があると感じた。（相対度数を求めて比べる，など）基礎基本の定着を図りながら，それを生かす実践力を身に付けさせていきたい。

宇都宮市立晃陽中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○学校に行くのは楽しいと思うの肯定的割合が92%と高い。
○今住んでいる地域の行事に参加していますかの肯定的割合が74.5%で県や国の割合より27.5ポイント以上高い。
○学校でコンピュータなどのICT機器を他の生徒と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用しているかの肯定的割合が、82.4%で県や国の割合より42ポイント以上高い。
○総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますかの肯定的割合が、94.2で県や国の割合より13.6ポイント以上高い。
●自分には良いところがあると思うの肯定的割合は68.8%で県や国の割合より約10ポイント低い。
●将来の夢や目標を持っていますかの肯定的割合は、62.8%で県の割合より約10ポイント低い。
授業をはじめ、あらゆる場で意図的に生徒を褒めて自己肯定感を高めるための支援をする。また、進路を決定する上で、今まで調べてきたことを参考にして、将来の夢や目標について本人の意見をよく聞いて支援していく。
●数学の勉強は好きですかの肯定的割合は、33.3%で、県や国の割合より約24ポイントで低いが、数学の勉強は大切であり社会にでた時に役に立つと考えている。問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えて努力している様子がうかがえる。T・Tや習熟度による授業で今後も支援指導を続けて行く。

宇都宮市立晃陽中学校（第3学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
○学力向上を目指す学習指導の改善と生徒の学習習慣の育成。	・言語活動の充実 ・思考力、判断力の育成。 ・自主学習の定着。	・授業の中での話し合い活動について、以前よりも活発に行えるようになってきた。 ・課題に対して、じっくりと考え、学びを深めることに 対しては、不得手である。 ・宿題などの与えられた課題には取り組めるが、主 体的に取り組む学習は苦手である。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
○主体的に学習に取り組もうとする態度の育成	・計画的に学習に取り組む態度を育てる。	・各教科の時間の中で、目標やめあてに則し、計画的かつ効率的に課題解決に向けて、主体的に学習に臨む姿勢を育てる。